

奴国なこくかわらばん

第二号
令和三年一月二十五日

令和2年11月27日に、文化財専門委員会須玖岡本遺跡調査研究部会が開催されました。年末、年始にかけて、弥生時代の権けん（分銅）がマスコミに取り上げられました。

調査・整備の方向性を議論

将来、史跡須玖岡本遺跡をどのように保存し、活用するかの方角性を決めるために、大学教授や元文化庁職員など5人をメンバーとする『文化財専門委員会須玖岡本遺跡調査研究部会』を立ち上げています。

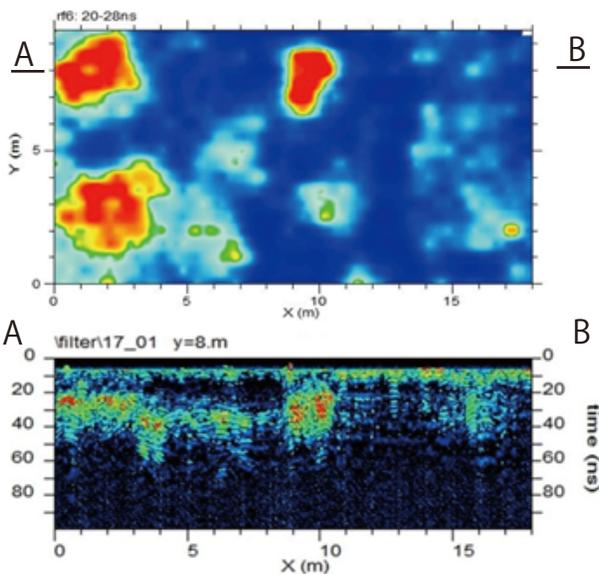
史跡地を整備する前に、優先的に発掘調査をするのはどこの場所か、どのように発掘調査を行えば良いのかなど、市と意見交換をしたり、指導、助言をいただいています。

令和2年11月27日には、令和2年度2回目会議がありました。主な協議内容は次のとおりです。

- ① 須玖岡本遺跡の整備のための計画を令和6・7年度に策定する。
- ② 整備前に、地中レーダー探査と発掘調査を行う。
- ③ 地中レーダー探査と確認調査時には、条件が整えば市民が参加できるように工夫する。
- ④ 整備は、一定の面積を公有地化した場所から優先順位をつけて行う。
- ⑤ 本格的な整備の前には、現在公有地化している敷地の維持管理を工夫し、見学者などが訪れやすいようにする。

地中レーダー探査で遺跡の種類を把握

電磁波を地中に向けて放射し、地中の様子を探り遺跡がある場所や深さを確認します。ソリのような機械を地面の上に這わせて測定し、モニターで見て遺跡などがある場所を確認します。平面（左写真上）では、穴や何かが埋まっていると色が異なり、断面（左写真下）ではどれくらいの深さにあるのかを知ることができます。



市民参加型での調査を予定

新型コロナウイルス感染の拡大状況にもよりますが、今後、市民の皆さんと一緒に、専門家の指導を受けながら地中レーダー探査、発掘調査をできたら良いと考えています。準備が整いましたら改めてお知らせいたしますので、お待ちください。



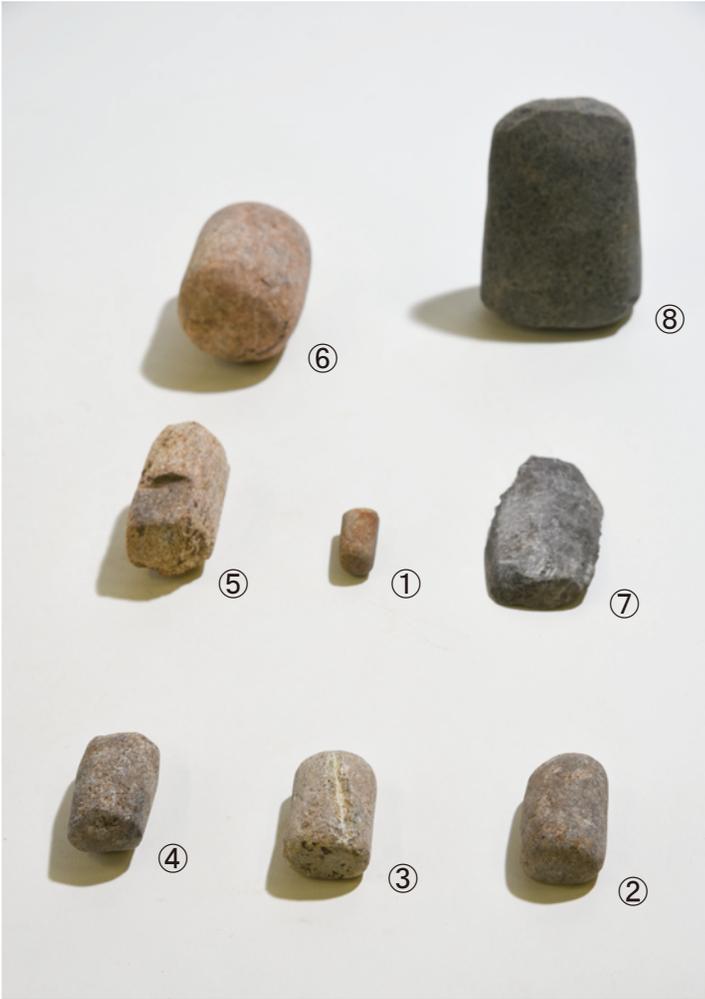
ソリのような探査機と地中レーダー探査の様子

日本最古!! 弥生時代の権(分銅)

年末から年始に、新聞やテレビで取り上げられた弥生時代の権(分銅)について紹介します。

平成35年度にかけて、須玖遺跡群の3遺跡から出土していた8点の小さな石器。これらは、砥石や破損した石斧と考えられています。

しかし、近年の考古学の研究の進展によって、これらの石器は天秤で「もの」の重さを測るために使われる弥生時代の権であることが明らかになり、しかも、1点は紀元前2世紀頃、日本最古のものであることが分かりました。



数種類を使って 朝鮮半島などと交易

欠損したものもありますが、確認された8点の権には少なくとも5種類の大きさがあります。弥生時代の権に詳しい福岡大学名誉教授の武末先生の協力を得て、これらの権が約11gを基準とする3・6・20・30倍であることが分かりました。

重さの基準は、韓国の茶戸里(タホリ)遺跡(紀元前1世紀)から出土した権とほぼ共通するため、紀元前2世紀頃から朝鮮半島などと同一基準の重さで交易を行っていたと考えられます。

①	②	③	④
5.9g+	35.2g	33.6g	32.5g
1倍?	3倍		
半分?			
⑤	⑥	⑦	⑧
69.2g	223.7g	37.9g+	337.2g
6倍最古	20倍	?	30倍
		破片	

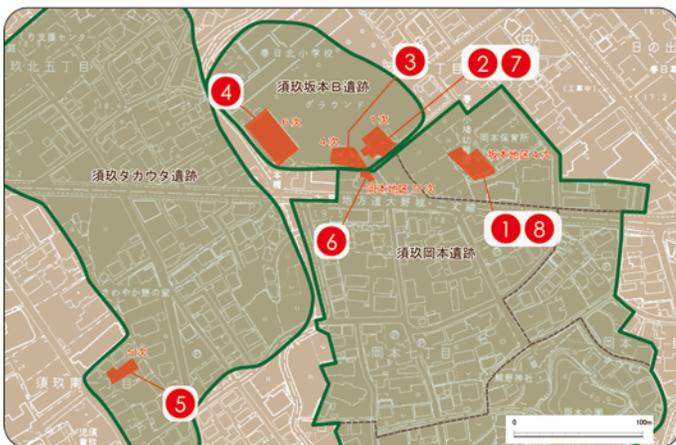


良質な青銅器を生産か!?

8点の権は、須玖遺跡群の北部、春日北小学校南側の遺跡から集中して出ています。これらの遺跡は、たくさん青銅器を生産していた遺跡であることが分かっています。権は、良質な青銅器を作るために、原料となる銅や錫などを正しく調合するために使用されていたのかもしれない。

権は、2月14日まで奴国の丘歴史資料館で展示しています。ぜひご覧ください。

須玖遺跡群で出土した権および遺跡分布図



【問い合わせ先】 奴国の丘歴史資料館

Tel 092(501)1144
 Fax 092(573)1077